



青森県漁業士会会報

20.3 vol.16

浜風

HAMAKAZE

発行：青森県漁業士会

青森県水産振興課内

Tel 017-734-9592

編集：「浜風」編集委員会

平成19年度青森県漁業士会総会開催



平成19年5月11日（金）、青森国際ホテルにおいて、青森県漁業士会通常総会が開催され、平成19年度の事業計画等について審議が行われました。

また、総会に引き続き、行われた研修会では、青森海上保安部から講師を迎え、「漁船海難事故の発生事例とその対策について」と題して講演が行われました。

参加者は、安全操業、事故防止にあたって留意すべき点等を再確認するとともに、漁業士として他の模範となるよう意識を新たにしました。

新会員の紹介

平成18年度、新たに2名が指導漁業士に認定されるとともに、4名の青年漁業士が指導漁業士に移行しました。

また、平成19年度、新たに1名が指導漁業士に、11名が青年漁業士に認定されるとともに、1名の青年漁業士が指導漁業士に移行しました。

○東青漁業士会

平内町漁協 豊島 洋一

私は、平内町漁協浦田支所に所属する豊島洋一です。昨年より指導漁業士となりました。

私が指導漁業士に認定される前後の年は、ホタテ養殖においてさまざまなことがおこりました。ホタテ貝のへい死やホタテ貝出荷時の値段の低下などがありました。これからは厳しいホタテ貝養殖ですが、これも経験の内と思ひ、これからはホタテ養殖に精進していきたいと思ひます。

そして、いつかこの苦しい状況をいかにして乗り切るのか後輩に教えていきたいと考えています。





平内町漁協
田中 哲也
平成18年度に指導漁業士になりました。20数年ホタテ養殖を営んできましたが、まだまだ未熟で指導する立場ではないと思っています。今後は、1年を通して出荷できる体制づくりに取り組みたいと思っていますので、仲間とともに頑張りたいと思います。



平内町漁協
笹原 喜代一
指導漁業士に認定された、平内町漁協東田沢地区の笹原です。各地区の漁業士、また指導士と情報交換をしながら若い人達の良き相談相手になればいいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

○むつ支部会



石持漁協 齋藤 栄蔵
この度指導漁業士に認定されました齋藤です。小型定置網漁業を営んでおります。ここ数年漁業を取り巻く環境が著しく悪化しており、特に最近騒がれている食の安全、産地偽装、また原油の高騰による資材の値上げ等、これらを考えると漁業経営の圧迫や後継者の育成、新規参入には難しいものがあると常感じております。すぐ解決される問題ではありませんが、微力ながら行政、関係者の方々に協力し魅力ある漁業を育て浜に活気を取り戻したいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。



川内町漁協 橋本 進
指導漁業士の認定を受けまして、身の引き締まる思いです。漁業者の高齢化が進む中、後継者の指導、育成が重要となってくると思います。

漁業士会の研修会、交流会で知識を高め、自身の糧となるよう、仕事と共に頑張りたいと思います。



尻労漁協 林 一喜
この度、指導漁業士の認定を受けました尻労漁協所属の林です。現在、一本釣漁業を主体に漁業を営んでいます。今後は、関係機関と連携のもとに、優れた漁業技術・経営の確立と普及を図るとともに、後継者の育成に努めてまいります。よろしく申し上げます。



川内漁協 美濃部 文和
この度、青年漁業士の認定をいただきました。まだまだ未熟な自分としては大変な重圧感を覚えたりもしますが、この機会をひとつの契機に、より今まで以上に仕事に対しても取り組み、また、漁業士会の活動に積極的に参加し、様々な情報交換や経験を積み勉強していきたいと思っています。よろしく申し上げます。



市川漁協 木田 茂美

漁業士に認定され、すぐに鶴岡市で開催された東北・北海道ブロック漁業士研修会に参加し、各地の方々と交流を図れたことは大変有意義であった。

長年、小型定置網、ほっき桁網漁業を営み経営安定に取り組んできたが、一層の励みとして地域漁業振興に微力ながら関わっていきたいと思います。



三沢市漁協 高橋 伸広

青年漁業士の認定を受けてから、今まで以上に責任感や重圧を感じながらも、仕事に対する取り組み方や向上心が一層増した思いです。

漁業士会の活動を通じて知識を深め、地元漁業の発展に貢献することや、他の若い漁業者のリーダー的存在になれるよう頑張りたいと思います。



三沢市漁協 鷹架 勝

今年、青年漁業士として認定を受けられたことを光栄に思っております。今後、いろいろな活動の中で他の漁業士と交流を行いながら

知識と技術を深めていき、これからの漁業の糧にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



三沢市 沼山 邦将

この度、青年漁業士として認定を受けた三沢市漁協所属の沼山です。まだまだ未熟者ですが、漁業士会の活動に積極的に参加して交流しながら知識を深めていきたいと思っ

ていますので、皆様方よろしくお願い致します。



小川原湖漁協 千葉 優士

今年から青年漁業士になった小川原湖漁協所属の千葉です。これまでシジミのラーバ調査など青年部での活動に参加してきました。

今後は漁業士としての活動を通じて知識や技術を深め、先輩方と協力しながら積極的に活動を行うよう頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



小川原湖漁協 織笠 親作

小川原湖漁協所属の織笠親作です。今回漁業士になるにあたって、関係者の皆さんにはいろいろとお世話になりました。

これからは、様々な活動に参加し各地の漁業士の方々と交流をもち、いろんなことを勉強しながら漁業士という立場に誇りを持ち、先輩漁業士の方々協力して小川原湖漁協を引っ張っていきたいと思います。



十三漁協 小倉 広起

この度、指導漁業士の認定をいただいた小倉です。近年の水産業には漁業者の減少や高齢化、担い手確保などの問題が多く有りますが、それを打開するためにも小中学生の体験学習及び若者については、もう一つ担い手となるお嫁さんの確保といった活動等を考え、取組み、将来魅力ある場を提供していきたいと考えています。



十三漁協 工藤 勉

この度、青年漁業士に認定していただきました十三漁協の工藤勉と申します。漁業経験が6年目と日が浅いですが、これから諸先輩

方々のご指導を受けながら積極的に勉強し、漁業の発展繁栄のために取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



十三漁協 豊島 好幸

この度、青年漁業士に認定いただき、ありがとうございます。私は十三湖と日本海で漁業に従事しておりますが、これからも皆様方や諸先輩の方々のご指導を受けながら、魅力ある地域づくりのために勉強し、色々な活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



鱒ヶ沢漁協 奈良 恒人

この度、青年漁業士の認定をいただきました鱒ヶ沢漁協の奈良と言います。漁業士活動を通して、いろいろ学びながら自分の幅を広げていきたいと思っていま

す。それと同時に漁業発展等に少しでも貢献できればと思っております。分からないことばかりですので、皆様方や諸先輩方、ご指導よろしくお願い致します。



鱒ヶ沢漁協 三ツ谷 孝幸

この度、青年漁業士の認定をいただきました鱒ヶ沢漁協の三ツ谷孝幸です。漁業に従事した経験や知識も浅い若輩ではありますが、青年漁業士に認定された事

を感謝しております。これからの漁業の発展繁栄のため様々な活動に励んでいきたいと思っておりますので、先輩方のご指導賜りますようよろしくお願い致します。



新深浦町漁協 田附 直人

近年の漁業情勢は、大型クラゲの来襲や魚価低迷など暗い話題ばかりですが、このような時だからこそ、新たな取組みなどに挑戦することが大切であると思えます。そのため、先輩漁業士方々の指導を受けながら勉強し、色々な事に取り組んでいきたいと思えます。今回、青年漁業士に認定いただき、ありがとうございます。

《東北・北海道ブロック漁業士研修会 参加者報告》

平成19年7月10日～11日 山形県鶴岡市

青東支部会 久慈孝弘

当研修会には、畑中会長をはじめとして、漁業士8名および県職員3名の計12名で山形県鶴岡市に行ってきた。講義では、世界的な日本食ブームにより、魚の需要が増え需要と供給のバランスが大事になり、それに伴ない、食の安全性が重要視されている内容でした。具体例では、幹事県である山形県の取組みとして、船上で鮮度保持するために海水温度を0℃まで下げる装置の導入により鮮度保持を行う努力をしていました。しかし、それが市場価格に反映されない点が悩みとの事でした。

研修をして、今ではマグロの最高級ブランドとして有名な「大間マグロ」が脳裏に浮かびました。一つ一つの努力の積み重ねによって、現在のようにブランド品の確立に至ったと思いました。



一つ一つの努力の積み重ねによって、現在の



むつ支部 岩屋漁協 相馬善意

むつ支部会からは向井会長、畑中副会長そして私の計3名が出席しました。今回は(独)水産総合研究センター中央水産研究所利用加工部の木村部長より「水産物の価値を最大に・水産物の有効利用について」という御講演を拝聴しました。近年は魚価安だけに留まらず、燃油高騰などの煽りでどこも厳しい漁家経営を強いられており、日頃の漁獲物の高付加価値化というテーマは大変有意義でした。続く各県からの、流通実態や鮮度保持に係る事例紹介も参考になるものばかりでした。翌朝は、鶴岡市内にある

善寶寺を参拝しました。ここは海の守護神・龍神を祭っているということで、むつ支部会員の航海安全と大漁を祈願してきました。



八戸水産事務所 普及課 白川慎一

平成19年7月10日(火)～11日(水)の2日間にわたり、山形県鶴岡市のホテル海麓園において「平成19年度東北・北海道ブロック漁業士研修会」が開催されました。

1日目は、独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所利用加工部長木村郁夫氏から「水産資源の有効利用」と題して、水産物の価値や資源の状況、鮮度変化のメカニズム及びHACCP

とトレーサビリティについて講演がありました。

その後の自由討論では各県の事例発表があり、海水氷や清浄海水の設備導入など価格に反映される取組に真剣に耳を傾けていました。

また、2日目の朝には、早朝5時に起床し善寶寺で各自の船名入りの旗や札を購入しました。前日の交流会の後2次会にも参加していたにもかかわらず、集合時には皆さん全員が揃っていました。参拝後は、山形県栽培漁業センターを視察し、鼠ヶ関漁港にて清浄海水装置導入船の船主達と意見交換を行い帰途につきました。

《日本海ブロック漁業士研修会 参加者報告》

平成19年8月24日～25日 新潟県新潟市



溶かした発泡スチロール

日本海支部会 大川昭一

平成19年8月24～25日に「日本海ブロック漁業士研修会」に出席し、独立行政法人日本海区水産研究所の田永軍主任研究員の講演を拝聴及び各都道府県の漁業士との意見交換を行いました。講演では、日本海の気候変動に伴い水産資源の動向が変化することを学びました。意見交換では、「低・未利用魚の有効活用、売りづらい魚の販売戦略、付加価値向上の取組み」をテーマに行われ、各県共に創意工夫し、その地域にあった取組みを行っていると感じました。25日には新潟中央卸売市場の視察及び発泡スチロール処理工場の視察に参加しました。発泡スチロールリサイクル処理工場では、規定どおりに持ち込めば処理費用（リサイクル料）が無料であるにもかかわらず、リサイクル後の原料を中国に販売するなどして赤字にはなっていないことには驚かされました。今回、研修したことを活かし、色々な事に取り組んでいきたいと思えます。

《女性漁業士交流会》

平成19年8月29日 青森県鯉ヶ沢町

平成19年8月29日に岩手県、宮城県、茨城県、千葉県及び青森県の女性漁業士が集まり、交流会が開催されました。

第1分科会（海藻類等養殖業）

第2分科会（貝类等養殖業）

第3分科会（網、釣漁業）

に分かれて意見交換がなされ、その後の全体会議の場で、「現在の漁業生産の場には女性の支えが必要であり、男性の理解と思いやりが必要」と意見で一致しました。



《第49回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会開催》

平成20年1月23日、青森市の県民福祉プラザにおいて「第49回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」が開催され、5人の発表者がそれぞれの研究テーマに沿って、その活動の実績を発表しました。発表内容は、県や漁業関係者など15名の審査委員によって審査され、優秀賞に、佐井村漁業研究会が選ばれました。

なお、3月5日から6日、東京都の虎ノ門パストラルで開催された「第13回全国青年・女性漁業者交流大会」において、本県代表で参加した佐井村漁業研究会が農林水産大臣賞を受賞しました。



発表課題

- ①ホタテガイ養殖管理の改善に向けて ～蟹田沖における餌料変動とユウレイボヤ室内実験～
外ヶ浜漁協蟹田青年部 高森 優

「陸奥湾の主要産業であるホタテガイ養殖業は、近年、予測できない高水温や異常気象によって発生するへい死現象や過剰生産による価格の低迷など、不安定な状況におかれている。

これらを解決するため、餌料環境の目安であるクロロフィル量と養殖作業の妨げとなるユウレイボヤに着目し、養殖技術の改善に向けた取組みを行った」

- ②小川原湖の宝を守る ～ヤマトシジミの資源復活に向けて～
小川原湖漁協蜆生産部会 鶴ヶ崎 純一

「平成14年から16年にかけて行った小川原湖のシジミ現存量調査により、平成13年以降の3ヶ年間にわたり稚貝が殆ど発生していない事実が明らかになったことから、シジミの種苗生産と稚貝放流を試験的に行うと共に、産卵母貝保護のための禁漁区を設定し、小川原湖のシジミ資源管理と増大に向けた取組みを行った」

- ③ヤリイカ産卵礁設置試験及びふ化試験 ～地先資源回復を目指して～
新深浦町漁協北金ヶ沢漁業振興会 田附 直人

「深浦町をはじめとする日本海沿岸において、重要な資源であるヤリイカは、近年、資源状態や来遊量が低水準で推移していることから、資源の増大を図るため産卵礁の設置に着目した。

地先漁場は底建網等が密集しているため、既存の大型魚礁の設置は困難であると考え、身近な材料を活用して作成した小型産卵礁を設置し試験を行った」

- ④養殖アカガイの生産安定化へ向け ～ポストホタテガイを目指して～
川内町漁協青年部 美濃部 文和

「陸奥湾の主力産業であるホタテガイ養殖業は、近年、価格低迷の傾向にあることから、かつて天然アカガイが大量に漁獲された時期があったことに着目し、ホタテガイに次ぐ新たな養殖対象種としてアカガイを選定し、養殖技術の確立を目指した」

→つづく

⑤ウニの移植で磯焼け時代を生き抜く ～みんなで活かす未利用資源～
佐井村漁協佐井村漁業研究会 福田 弘一

「磯焼けによって衰退したコンブ漁場を回復させるためには、その原因となっているウニを駆除することが有効で、その駆除したウニをコンブ以外の他の藻場へ移植することにより、身入りが改善されウニの価値を高め、藻場も回復させることが可能となった」

◀◀ 支部トピックス ▶▶▶▶

《豊漁豊作祈願祭：むつ支部会》



今年も9月29日にむつ市まさかりプラザ・イベント広場で、毎年恒例の「生産者による豊漁・豊作祈願祭」を開催しました。これは、当会むつ支部会と下北地区指導農業士会がともに豊漁・豊作を祈願する神事を執り行い、さらには地元水産物、農産物の消費拡大をPRするために行われているものです。今年も晴天に恵まれ、御来場頂くお客様の人数も年々増えています。ちゃんちゃん焼きの無料配布やミニ水族館、ホタテ取りゲームなどのイベントを通じ、たくさんの募金を頂くことができました。この募金は「漁船海難遺児を励ます青森県地方協議会」にお届けしました。来年もより盛大に開催し、さらなる魚食文化の普及に努めていきます。

《植樹活動と農林水産祭：東青支部会》



東青漁業士会の最初の活動は、5月上旬の定期総会から始まります。今年度は以下の事業を行いました。

まず、例年行っている海浜清掃の代わりとして、今年度は7月上旬に平内町東田沢にて植樹活動の一環として植林場の下

草刈りを総勢16名で行いました。予想以上に移植苗木の周りには、雑草が繁茂し、植林後の管理の重要性を再認識しました。研修会については、2つの研修会に当会員が出席しています。7月上旬には、久慈会長命め役員3名が山形県鶴岡市で開催された東北・北海道ブロック漁業研修会に出席しました。

また、8月末の鰯ヶ沢での女性漁業士交流会には、当支部から女性漁業士5名参加し、岩手、宮城、茨城、千葉の他県の女性漁業士と浜の現状や理想を発言しあいました。

9月上旬には「陸奥湾におけるはたて漁業の歩み」と題し、青森地方水産業改良普及所小倉所長により学習会を開催し会員28名及び日本海支部漁業士7名が参加しました。学習会の後には、日本海支部漁業士との交流会も行いました。

11月上旬の農林水産祭では、恒例の活ホタテガイや鮮魚の販売を行いました。初日の売上げは、鮮魚を少量ですが格安で出した効果もあり、ホタテガイそのものの販売も好調でした。しかし、2日目は売上げが鈍りました。2日目は、初日より一回り大きなホタテガイを用意しまし

たが、試食では、味は良いというもの、大きいホタテガイ（一皿に7～8枚）よりも、（初日販売時のような）一回り小さいホタテガイ（一皿に10枚）の方が割安感を感じるお客さんが多かったようです。販売の難しさを痛感しました。

来年度も、各漁業士の交流を深める活動を行っていきたく考えています。



《青森市水産指導センター視察：日本海支部会》



中国の高度成長&オリンピック開催の影響によるものか、ナマコの単価が高くなってきています。そのためか、日本海の漁業関係者よりナマコについての問い合わせや要望が日に日に多くなってきています。また実際に、天然採苗試験を行う漁業研究会なども見え始めています。我々も例外ではなく、ナマコには非常に興味をそそられています。日本海側では漁獲量が少ないことから、資源量も少ないと考えられます。闇雲に獲っては資源の枯渇を招きかねません。

今回はナマコ知識を深めるとともに、今後ナマコ資源をうまく利用していくことを考え、10年前からナマコ種苗生産に取り組んでいる青森市水産指導センターへ平成19年9月5日に訪れました。基礎知識、資源管理及び天然採苗方法等たくさんのアドバイスをいただき非常に勉強になりました。対応してくれた長谷川所長には、この場を借りて感謝を申し上げます。（山下幸彦）

《漁業士による水産教室：三八支部会》



去る10月12日、東北町立甲地小学校において「小川原湖の漁業」と題しての水産教室に小川原湖漁協所属 沼辺啓市漁業士及び沼辺正孝漁業士が忙しいなか協力してくれました。

始めに水産事務所から、シジミやシラウオ、ワカサギの漁獲方法や、小川原湖の水質について説明し、その後、沼辺正孝漁業士からジョレンの使い方について実際に道具を使って生徒を交えて行いました。

生徒達は小川原湖について非常に関心が高く、「どうすればシジミは増えるの？」や「何で小川原湖は汚れてしまうの？」など質問がたくさんありました。

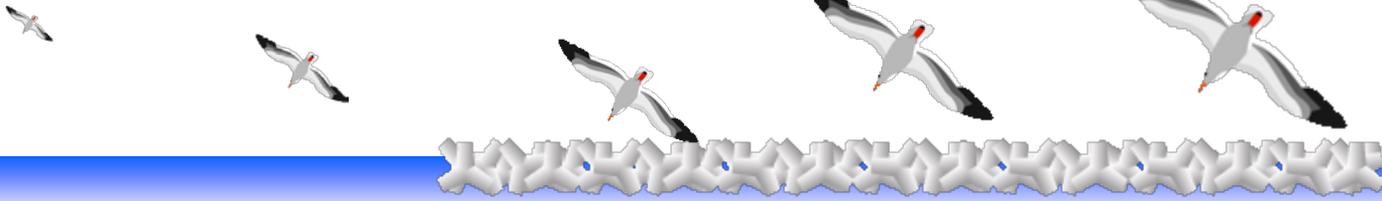
また、漁具の使い方については「ジョレンを引っ張るにはこんなに力が必要なのか」と非常に驚いていました。

浜の伝説

◎ニシンを連れてきた「沖の鹿島」のオカモイ様（深浦町岩崎）

昔々、北海道の神居岬というところに祠があり、そこには男の神と女の神の二柱の神様が祭られていました。その女の神が特別つきのヤキモチ焼きだったそうで、神居岬の沖を女の人が船に乗っていると、男の神に会いにきたと思うのか、大風が吹き海は大荒れになり船人達を困らせていたそうです。

ある時、徳川幕府の家臣が、幕府の命令で北海道の勤務地におもむく際、奥方や子供を連れて、神居岬の沖を通過しようとしたところ、大暴風となり大波のために船が難破しそうになったそうです。急に大風が吹いて大時化となった理由を知った家臣は、將軍の命令で勤務地に行く我等に、このようなことをするとは、不届きな神で、そういう神は邪神であるといつて、二柱の神様が祭られていた祠を打ち壊して、海中に投げ入れたそうです。



話の場所は変わって、現在の深浦町岩崎で大時化の続いたある日の夕方、時化の中だというのに一隻の帆前船が北の方から矢のような速さですすんできて、「沖の鹿島」と呼ばれる岩場に乗り上げたと思った瞬間、帆前船はパッと目の前から消えてしまったそうです。翌日、大時化がウソのようにおさまり、「沖の鹿島」と呼ばれる岩場には、昨日まで無かった大きな石が二つ並んで立っていたそうです。「昨日の大時化の最中に、あの大船に乗って蝦夷から神様が来たのだ、あの大岩はその神様の化身なんだ」と言う村人がいたそうです。

その翌年から、ニシンが獲れ始め、明治二十年代はかなりの漁獲量があったようです。その神様はオカモイ様と呼ばれるようになり、村人達は、いつの頃からか、ニシンの大漁は蝦夷の神居岬からオカモイ様が引き連れてきた魚だと信じるようになったそうです。

しかし、明治三十七年になるとピタリとニシンは獲れなくなったそうです。

その理由は・・・、「沖の鹿島」のオカモイ様の女神も大変なヤキモチ焼きで、女の人が近くとオカモイ様の機嫌が悪くなるといわれていたようですが、明治三十六年の冬に「海苔つみ」に夢中になっていた村の女性が、「沖の鹿島」にあがってしまい、しかも履き古したわらじのヒモを結ぶために、オカモイ様の大石の一部に片足をかけてしまったそうです。ヤキモチの女神は怒りに怒ってしまったのでしょう。この晩から、大風・大波で一晩中、大荒れに荒れたそうです。翌日、大時化がおさまり、村人達は浜に出て驚いたのなんの、「沖の鹿島」からオカモイ様の大石が消えてしまっていたそうです。それと同時にニシンも獲れなくなってしまいました。

(資料提供：深浦町)

◎ホッケの海苔巻き

(材料)

- ホッケのすり身・・・300g
- 海苔・・・4枚
- ほうれん草・・・1/4束
- 人参・・・中1/2本

(作り方)

- ①ホッケを三枚に卸し、すり鉢でするか、機械を使いすり身を作る。
- ②サランラップの上に海苔を敷く。
- ③その上にすり身をのせ、中央にゆでたほうれん草、人参をのせる。
- ④手前からゆっくり巻いていく。
- ⑤ラップのまま蒸し器で10～15分間蒸す。

(資料：深浦町「深浦の浜のカッチャの味」より)

郷土の逸品



「新生「賓陽塾」」

苦しいときこそ必要な人材育成

増養殖研究所 浅海環境部 吉田秀雄



平成19年度賓陽塾通常研修終了式

平成18年度末、県の行政改革の一環により青森県立海洋学院が廃止されました。漁業士の皆様の中には、学院の前身である漁民修練道場「賓陽塾」、水産修練所を修了した方も少なからずおられるのではないのでしょうか。

漁業士会と学院は、漁業の生産現場の視点から学院生に講話をしていただいたり、ホームステイによる現場体験や漁村生活の指導をしていただいたりと親方と弟子（親子）の関係のように面倒を

見ていただきました。お世話をおかけした分、一抹の寂しさを感じている方も多いのではないのでしょうか。

ご承知のとおり、海洋学院が担っていた漁業後継者育成業務は水産総合研究センター増養殖研究所での漁業後継者育成対策事業に引き継がれましたが、これまで学院で実施していた研修内容が大きく変わり、今年度、新生「賓陽塾」が誕生しました。大きな変更点は、一年間全寮制の学校方式から原則通学による短期の講座方式になった点です。これまでは、修了した方々はご存じのとおり、海洋学院（漁民道場）は漁業生産実習を通じて汗と経験によって学ぶ体験学習と生徒全員が一年間にわたる共同生活をするにより漁村社会で即戦力となる人材養成をすることが最大の特徴でしたが、新生「賓陽塾」は、受講対象者に現役の漁業従事者も参加出来るよう、約3ヶ月間の原則通学制による短期研修方式となりました。

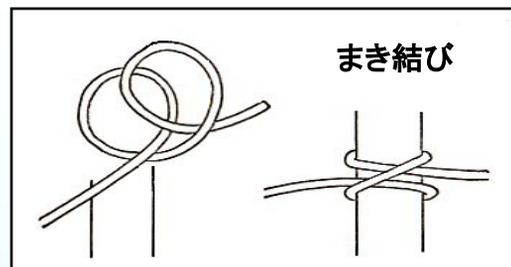
平成19年度「賓陽塾」は5月14日に開講し、17名（青森市2名、平内町14名、野辺地町1名）が入塾し、7月31日に6名が修了しました。受講生は、全員が漁業従事者であり、忙しい作業のなか学習時間を作り、眠気と戦いながらの勉強となり、旧「賓陽塾」とは厳しさの内容は異なるかもしれませんが、自己啓発と自己研鑽の精神は受け継がれているものと思われます。漁業士の皆様も本来の生業のほかに漁業士活動を行っておられますので、このあたりの状況は良くお分かりになると思います。また、賓陽塾では資格取得研修として2級小型船舶操縦士及び3級海上特殊無線技士の講習会を開催し受講者全員が合格しています。このうち無線講習は、人数がまとまれば現地での開催が可能となりますので是非活用して頂きたいと思います。

賓陽塾は、漁業後継者の育成のため設置されましたが、漁業士制度の趣旨と同様、青森県の水産業発展に資することを目的としています。漁業生産額の伸び悩みや燃油高騰、漁業従事者の高齢化など水産業界は厳しい環境にありますが「苦しいときこそ人材育成が必要」であることを念頭に、漁業士会の協力を得ながら本事業を進めていきたいと思ひます。

最後に、現在平成20年度の研修事業の準備及び塾生募集をしています。漁業士の皆様の近辺で、漁業に従事して間もない人や水産知識の習得に意欲をもった人がいれば、是非増養殖研究所またはお近くの普及指導員まで御連絡をお願いします。

漁業研修コース研修生（賓陽塾 塾生）募集のお知らせ

これから漁師になりたい人、漁師の跡継ぎになりたい人のために、研修を実施します。



○募集定員 10名

○研修内容及び期間

・通常研修期間（5月から7月まで）

講義：青森県の水産業、漁業関係法令など

実技：沿岸漁業実習、ロープワーク、水産救助訓練など

○通学方法

・原則通学制（事情によっては所内の研修棟に宿泊可）

○費用負担

・教材費や水道光熱費など一部負担あり

○応募資格

・漁業者又は漁業への就業を希望する県内出身者（年齢、性別不問）

○研修場所

・青森県水産総合研究センター・増養殖研究所

青森県東津軽郡平内町茂浦字月泊10

○問合せ先

青森県水産総合研究センター・増養殖研究所

電話：017-755-2155

FAX：017-755-2156

おこもり（佐井村牛滝）



「めしーっ、めしーっ！」「しるーっ、しるーっ！」。我が佐井村牛滝地区で100年以上の歴史を持つ奇習「おこもり」を紹介します。大漁や無病息災を感謝・祈願するため、毎年12月15日と1月15日に、地区の老若男女が神明宮に集結します。

そして、ご飯や汁をひたすら食べまくります。厳粛な気持ちと、笑いと、絶叫と、異様な雰囲気にも包まれながら、クラゲやトドに負けないよう限界まで食べるのです。

佐井村漁協 青年漁業士 中西友徳

☆ご意見、ご感想をお寄せ下さい。

青森県漁業士会「浜風」編集委員会

事務局：青森県農林水産部水産局水産振興課内

〒030-8570 青森市長島一丁目1-1 Tel: 017-734-9592

（編集後記）

年1回の発行となりました。発行時期が3月ということから、18年度及び19年度に認定された方々ご一緒の紹介となりました。（采田）

編集を担当して3回目の発行です。漁業士会の様々な活動、各地の文化などが盛り込まれていて大変勉強になります。（清藤）